

<教科に関する調査結果(学力調査と生徒質問紙)から>

国語・数学・理科の各教科とも平均正答率が奈良県・全国の平均を上回っています。基礎・基本となる学力の定着ができていますとみられます。特に知識・技能の観点に当てはまる問題について、高い正答率でした。

また、無解答率も低く、意欲的に取り組めている様子が見られます。

【国語】

漢字の学習を含む、言語事項に関する学習時間を毎回の授業で確保したり、細目に小テストを実施したり、反復する学習の結果、知識が定着しています。また、自分の到達度をその都度知ることができ、復習につながれているようです。

一方、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」の問いのような「書くこと」の分野は、正答率が他の観点に比べて低く、今後の課題と考えられます。ペアワーク・グループワークで、意見を言う際は、接続詞を適切に使い、文(文章)で述べるように指導を重ね、「記述」形式でも並行して行う取組が必要と考えます。

【数学】

知識・技能の観点に関わる問題について特に高い正答率です。授業で繰り返し学習することを大切にすることで、技能についての正答率が高くなったと思われます。また、確率や図形分野では、目の前で具体的な事象を見せたり、器具を見せたりしたことが成果につながったと思われます。

数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えている生徒が少ないことが、「一次関数の変化の割合の意味を理解している。」「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。」を問う設問の正答率が低いことと関係すると思われます。

今後は、レポートなどの課題において考察をさせたり、グループワークの中で考えを交流し合うというアクティブラーニングの要素を増やしたりし、結果から考察し、課題の解決を目指す力を育てる取組を行います。

【理科】

ほとんどの問題において、平均正答率が高く、理科に対する知識、技能、それをもとに考え、判断する力がついているとみられます。

理科の授業で、予想をもとに観察や実験の計画を立て、結果を考察し、振り返って再考するといったことに日々取り組んだ結果、問題に対して、よく考え判断し、記述する力をつけることができたと思われます。

一方、基礎的な知識や技能を活用して事象を説明することなどを苦手とする生徒が多くみられ、知識や技能の習得に加えて、それをもとに考察できる力がつけられるような取組の機会が必要と考えます。

<生活・行動や考えに関する調査結果から>

- 「毎日、朝食を食べている」や「毎日同じくらいの時刻に就寝・起床している。」など基本的な生活習慣はできている割合が多く、きちんとした生活習慣が身についているようです。
- 1年時からスマホ安全教室を行い、道徳を通して SNS に対する意識を持たせる取組を継続してきた成果として、携帯電話やスマートフォンの利用やルールを守れているという回答が多く見られます。
- 家にある本数が少なく、読書の時間が少ない生徒が多く、学校でも本に触れ合う機会を増やし、一部の生徒だけでなく多くの生徒が読書をする機会を設けることが必要と考えられます。
- 行事を通して、お互いの良いところを認め合い、一人一人の個性を大切にしたり、学期ごとにクラスで話し合いをしたり、クラスや学年をよりよくする機会を多く設けてきたことで、「自分によいところはある」、「学級生活をよりよくするために話し合い、互いのよさを生かして解決方法を求めている」と考えている生徒がかなり多く、これまでの学年の取組の成果と考えられます。